

整備機器

新商品

小野谷機工(株)

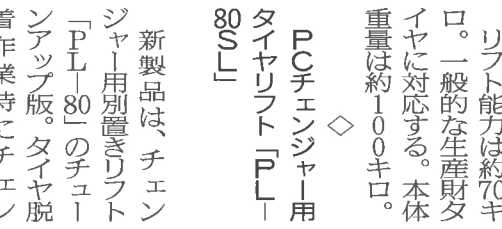
タイヤセットアップ
「イージーリフト グッド70」

タイヤリフト
「PL-80SL」「L-1000C」

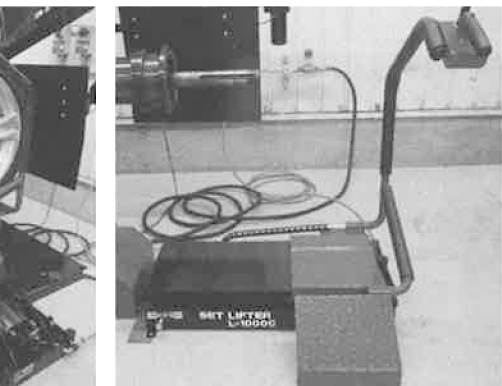
軽労化・省力化を実現し安全作業を



タイヤ積み上げは2人が力を合わせて行う大変な作業①、イージーリフトグッド70を使えば容易に行うことが可能だ。



PCチェンジャー用タイヤリフト「PL-80SL」タイヤを転がしリフトにセット②、ペダルを踏むと横向きになり上昇③、ローラーでスライド。省力化を実現④



ホイールバランス用タイヤリフト「L-1000C」本体とスイッチを一体化。作業動線が少なく効率化⑤

整備作業の軽労化・省力化と安全性向上は二律背反ではない。軽労化・省力化を突き詰めていくと、安全性はより高まっていく。タイヤ整備機器をはじめ更なるタイヤ製造や廃タイヤ処理の機器・システムの国産メーカー、小野谷機工(株)福岡井原越前市、三村健二社長)ではこのような設計思想のもとで日々、整備機器の企画開発を行っている。

そんな同社がこのほど、タイヤ整備の現場をサポートする新製品3種を開発し、本格販売を開始した。

タイヤセットアップリフト「イージーリフトグッド70」は、重量のある生産財タイヤを人の胸よりも上に積み上げるのはかなりの重労働で、落下の危険リスクも潜む。フォークリフトを使用することができない、たとえば上層階の

倉庫や狭い作業空間などではそのリフトは高さからに高まる。また作業本数が多くなれば当然、疲労度も進むし作業時間もかかる。また前後左右に凹凸が生じないよう綺麗に積み上げるのは大変だ。「イージーリフトグッド70」は、重量負担の大きなタイヤ積み上げ作業を機器の力で行う安全サポーターだ。275ミリ幅タイヤ8段、つまり人の頭辺りまでの積み上げに対応する。

商品開発部機器商品開発グループの三田村廣大さんは「最下限から最上限までリフト速度は約4秒というハイスピードを実現しました」と説明する。ボタン一つで任意の位置での作動・停止が可能だ。AC100V電源で作動するのでエアコンプレッサーは不要。本機には巻き取り式コードリールを内蔵し、4輪キャスターを採用しているため、運搬・移動が容易です」と続ける。

リフト能力は約70キロ。一般的な生産財タイヤに対応する。本体重量は約1000キロ。◇ PCチェンジャー用タイヤリフト「PL-80SL」は、本体にタイヤを乗せ、ペダル操作でタイヤを上昇させる。チェンジャーにセットする際、「PL-80」では作業者が自らの力によってタイヤをチェンジャーに向け倒し込みながらテーブル上にセットする。「PL-80SL」の場合、リフトにセット後、合リフトにセット後、ペダル操作でまずタイヤが横向きとなる。その状態で上昇し、テーブルの位置で停止させる。チェンジャーへの

セット時、ローラーの度でバランス作業にも機能でタイヤをそのままスライドすることが可能だ。テーブルにタイヤをセットする、その最後の工程でさらなる軽労化・省力化を同時にスイッチが左右にスライドすることで、一層作業しやすくなった。

リフト能力は約80キロ。リフト揚程は約820ミリ。◇ ホイールバランス用タイヤリフト「L-1000C」は、操作スイッチをリフト本体との一体型とした。作業時、本体との間にスイッチが左右にスライドすることで、一層作業しやすくなった。特にホイールのセンター部にシンターを挿入するという、精度が求められる作業。このときに、スイッチがタイヤ・ホイールとともにスライドするのでもにスライドするので、リフト右側からもその状態を目視しやすくなった。リフト能力は約80キロ。リフト揚程は約285ミリ。適用タイヤ径は550ミリ以上。

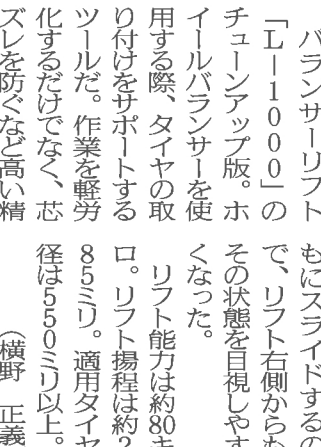


「イージーリフト グッド70」と商品開発部機器商品開発グループの三田村廣大さん

本体の足元には可動式のタイヤシューターを備えた。使用時にタイヤを乗せる際のストッパーの役割を果たす。本体幅が480ミリと、コンパクトサイズを実現。写真の通り、三田村さんよりも細いのが見てわかる。狭い場所での移動や使用を考慮した設計だ。



PCチェンジャー用タイヤリフト「PL-80SL」



ホイールバランス用タイヤリフト「L-1000C」